

令和4年度 天童市学習支援室リハビリスちえふる

通信「ちえふる」3月号

ふたりの車いすテニスプレイヤーの 考え方に学ぶ

～国民栄誉賞が決まった国枝慎吾さんについて～

国枝慎吾さんは、車いすテニスのシングルスプレイヤーとして、パラリンピック東京大会をはじめ3大会で優勝、四大大会（全豪、全仏、全米、ウィンブルドン）では計28度の優勝を果たし、四大大会とパラを全制覇する「生涯ゴールデンラム」の偉業を成し遂げました。今月3日、彼の実績が評価され、パラスポーツの普及にも貢献したことから、国民栄誉賞の受賞が決まりました。

先日、国枝さんがテレビに出演し、選手生活を振り返っている中で、彼の考え方に学びたいと思った2つの話を以下に紹介します。

競技をやっていると、調子の善し悪しは当然ある。そんな時に何をやるかといったら、練習しかなかったかなと思う。やみくもに練習するのではなく、何が自分に必要なのかということを明確にして練習する、練習の質を高めるということを徹底して追求してきたと思う。



何回も連続でポイントを取られて負けちゃうかと思った時は、「弱気な虫よ、飛んでいけ！」と振り払う動作を入れたりした。心自体は強くはできないけれど、いろんなセルフトークだとかメンタルチェックをしながら試合に勝っていったかなと思う。メンタルスキル、メンタルテクニックを学び、それを駆使しながらどう戦うかというところが、すごく大事な要素だったと思う。

～車いすテニス日本人史上最年少でプロになった

小田凱人（おだ ときと）選手について～

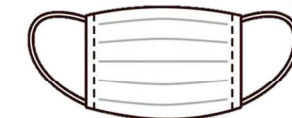
「闘病中の子どもたちのヒーローのような選手を目指して頑張っていきたい」と話すのは小田凱人選手。彼は、9歳の時に左股関節に骨肉腫ができ、人工関節を入れる手術を受け、大好きなサッカーをあきらめなければならない逆境に立たされました。医師のすすめと、国枝選手の活躍の様子を見て国枝選手に憧れを抱き、車いすテニスをはじめたそうです。13歳で、ジュニアマスターズシングルス・ダブルス優勝。15歳11か月でプロ転向を表明しました。彼の話で心に残っている言葉を紹介します。

「うまくいくわけがない」うまくいかないのが僕の中で普通。そこでくじけたりするのは全くない。神様からの挑戦。神様から選ばれたと信じて頑張りたい。」

夢を決してあきらめず、現実をしっかり受けとめ、物事を前向きにとらえようとする彼の考え方に学びたいと思いました。



マスクの着用について



3月13日からマスクの着用は、個人の判断が基本となりました。当学習支援室では、防音対策のため密室性を高めていることから、当面の間マスク着用を推奨します。また、2時間ごとの検温や入室する際の手指の消毒についても、引き続きご協力をお願いします。

学習支援室の情報は、QRコードからもアクセスできますので、ご覧ください。

